

○運

長閑なる、
 里道の、
 來し方を、
 われは泣きぬ。
 ふと見れば、
 縁缺けし、
 ちりあくた、
 おくふくと、
 あはれととと。
 おく梳よ!!
 聞かまほし、
 思ひ見る、
 人の家の、
 暖き、
 家人に、
 新玉の、
 平和なる、
 響應の、
 低き鼻、
 歡樂の、
 ひたすらに、
 華かに、
 あふ、さるを、

命

荒木 經明

小春日和や、
 土橋に立ちて、
 思ひつゞけつ。
 浮きつ沈みつ、
 腕の死骸、
 背に被りて、
 流れ來りぬ。
 見るも無殘、
 汝が歴史を。
 『汝も昔は、
 光る座敷に、
 慈愛を受けて、
 愛でられつらん、
 年の始や、
 村祭りには、
 華と成りてぞ、
 蠢かしつ。
 密に憧憬れ、
 幸を誇りて、
 生を送りき。』
 今の姿は……、

われは泣きぬ。
 さはれ、汝、
 春宵の、
 知らずや……。

知るや榮は、
夢的一幕、

いらへがもせて、
 下へ下へ……。
 見わし瞬間!!
 姿隠しぬ。
 いづちゆくらん、
 運命の神は、
 器を翻弄びて、
 擅にす、
 靈の人をや、
 われは涕きけり。
 川の面見つめつ……。

○銀 世界

堇つみにし野邊や此處、
 黄金の色にはこりたる、
 甫公英いつか白銀の、
 臺となりて残りたり、
 蝨たづねし岸や此處、
 玉と亂れしその光り、

あへなく消れて今ははた、
八重の水にとざされぬ。

紅葉染めにし山や此處、
錦とばかり見まがひし、

色消ねはてゝ北風に、
散りて亂るゝ六つの花。

今白妙の世に立ちて、
過ぎ來し方を偲ぶ時、

み空に高き月影は、
物凄き迄さへ渡る。」

漢詩

新 春

鷄鳴報曉一天新。

四海東風聖恩遍。

秋 郊 晚 歸

黃菊丹楓照眼清。

回頭酒旆隱林遠。

迎 春

送臘迎春曙色新。

拜年客去閑無事。

竹 鶯

瑞氣氤氳萬象春。

椒杯獻壽太平民。

全

夕陽幽徑一禽鳴。

好趁歸雲杖履輕。

天 香

舉家獻等酌芳醇。

早有明窓試筆人。

和歌

夕暮れの御堂の前に童べひとり

何願ふらん類づきてぬぬ

溝田 在庵

身と心直く正しく持てよかし

社の前の杉の如くに

師子吼道人

俳句

○

白梅や今日庵主の不在にして

茶に酔ふて寝られぬ宵や春の雨

春雨や今日も隠居の謠かな

瓦斯營の朦朧として春の雨

春雨やお次ぎに釜のたぎる音

雑談に女もまじる春の雨

○

うつし世のそのひと時を澁茶かな

閑

鶴